

【一】 語句に関する次の問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の体に関係する慣用句の()に当てはまる漢字をそれぞれ書きなさい。

- ① () がすわる……覚悟が決まって落ち着くこと。
- ② () がない……とても好むこと。
- ③ () をかかえる……考え込むこと。
- ④ () が高い……得意であること。
- ⑤ () を傾ける……熱心に聞くこと。

問二 次の①～⑤のことわざと類義のことわざを、後のア～オから選びそれぞれ記号で答えなさい。

- ① 猿も木から落ちる ② 月とすっぽん ③ ひょうたんから駒 ④ 三つ子の魂百まで ⑤ 石橋をたたいて渡る

- ア 雀百まで踊り忘れず
イ 雲泥の差
ウ たなからばたもち
エ 弘法も筆の誤り・河童の川流れ
オ 転ばぬ先の杖

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

かつて、書店にツトめていた。売り場に立てば、朝から晩まで「いらつしやいませ。」「ありがとうございます。」だ。ある時、昼休みを終えたアルバイトの女の子が、くすくす笑いながらモドってきた。どうしたのかと聞くと、弁当箱の蓋を開け「いただきます。」と言うつもりが、手を合わせて「いらつしやいませ。」と頭を下げたのだそうだ。

「ありがとうございます。」もクセになる。買い物をした際、あるいはタクシーを降りる際、釣銭を受け取りながら、ごく自然に「ありがとうございます。」と言ってしまふ。受けたサービスへの謝礼だ。悪いことではないし、相手にきよとんとされるようなふるまいでもないけれど、無表情のまま釣銭を差し出す店員や運転手にあたると、「なんでお客だけが礼を言うんや。」と苦笑してしまふ。

商売というのはすばらしいシステムだ。この世の幸福の総和が増大するようにできている。ごまかしがなく、納得した上でのフェアな取引ならば、双方ともが喜べるのだから。自由主義社会には競争があるゆえ、「うちで買っていただいていた方がいい。」と売り手は感謝しなくてはならないにしても、別に買い手が偉いわけではない。「いやお客は偉い。買うときは、だれもが王様になる。」という考えもあるだろう。

A 「それだと無用のストレスが社会に広がりそうで、賛同しかねる。子供のころ、駄菓子屋でキヤラメルを買う時や、食堂で精算をしている時、「買ってやったぞ。」とお客様面をしていた。高度経済成長期に育ったので、小学生でもいっぱしの消費者として扱われた結果と言える。そんな私が現在のように変化したのは、自分が社会に出て接客の現場にいたせいだろうが、それに先立つ経緯もある。

中学生になるかならずかという夏休み。両親の故郷である高松で過ごし、源平合戦で有名な屋島に遊びに行った。蝉しぐれの遊歩道を散策した私は、ある光景に出くわす。休憩所の店先に帽子をかぶったおじさんが立ち、中をのぞいていた。五十代ぐらいの人だったのではないか。連れはいなかった。うどんでも食べて店を出ようとしていたらしい。おじさんは財布を片手に、店の奥に向かって言った。「ちそうさまあ。」

意外な言葉だった。代金を払おうとしているのに店員の姿が見当たらない場合、とりあえず「すみませーん。」と呼びかけるものだと思っていた。いや、それしか思いつかなかった。なのに、このおじさんは無料でもてなされたのかのように「ちそうさま。」と言う。一瞬だけ違和感を覚えた後、私の内に変化が起きた。

自分のためにサービスしてくれたのだから、お客様として代価を支払うとしても、感謝の言葉を言うのが礼儀にかなっている。考えたこともなかったけれど、それはそうだと納得し、お客は偉いわけではない、と知ったのだ。

後日、食堂だかレストランだかで食事をして店を出る時に、私は小声で「ちそうさま。」と言ってみた。すると、それだけのことで一歩大人に近づいたように感じた。以来、店側に不始

末がないかぎり「こちそうさま。」を言い添えている。

屋島で見た何でもないひとコマが、私を少しだけ変えた。あのおじさんには、今も感謝している。先方は、すれ違っただけの少年に何事かを教えたとはゆめゆめ思っていないだろうが、大人の言動が子供に与える影響は、これほど大きいのだ。平素から心しておかなくてはならない。

(有栖川有栖「お客はえらくない」『日曜日の随想—2007—』(日本経済新聞社)より)

問一 二重傍線部③④の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 傍線部①「買い手が偉いわけではない」と「私」が考えるのはなぜか。その理由を示す一文を、これよりあとの文章中から探し、初めの五文字を抜き出しなさい。

問三 傍線部②「買う時は、だれもが王様になる。」とありますが、「私」が「王様」のような気持ちになったときのこと書かれている一文を文章中から探し、初めの三字を抜き出しなさい。

問四 Aにあてはまる接続詞を次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ そして ウ だから エ しかし

問五 傍線部③「それに先立つ経験」とはどんな経験ですか。文中より、十四字で抜き出しなさい。(句読点は含まない)

問六 傍線部④「私の内に変化が起きた」とありますが、どんな変化ですか。文中より十一字で抜き出しなさい。(句読点は含まない)

問七 傍線部⑤「小声でこちなく」から読み取れる「私」の心情として適切なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア 不本意だ イ 照れくさい ウ 気分が悪い エ 面倒くさい

問八 傍線部⑥「感謝している」とありますが、その理由を三十文字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

問九 傍線部⑦「ゆめゆめ」の意味を次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア たいそう イ 夢のように ウ 少しも エ おおっぴらに

問十 傍線部⑧「平素」の類義語を漢字で書きなさい。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

変身の正体を見極めようということになった。A、問題は早起しなくてはならないことだ。朝起きると、セミはいつもかえったあとだから、よほど朝早く羽化するに違いない。

お化けの正体をあばくような意気込みで、三日間早起したが、幼虫は土の中から出て来ない。水をかけたり掘り出して木にとまらせたりしてみたが、だめ。三日後に幼虫は死んでしまった。別の幼虫を用意すると、兄貴の特権を利用してミトに早起きを命じた。そして、幼虫がかえりだしたら起こしてくれとたのんだ。

ミトが寝間へ駆け込んで来た。

「すごいのかえつとる。」

「かえったあとなら、しようがないわ。」

ふとんの上に横になったまま、うるさそうにぼくは言った。もうひと眠りしよう。

「ミンミンゼミらしいよ。羽が透き通ってる！」

ぼくはがばと飛び起き、幼虫を埋めた植木鉢へ走った。

④一人は息をのんで、植木にとまっているセミに見入った。透明な羽に淡緑色の※翅脈が走り、まるで朝の妖精のように神秘的だった。なんとという透明な美しさだろう。ミンミンゼミが誕生したのだ。山にいるミンミンゼミの翅脈は黒ずんでいるが、生まれたてのものは※エメラルドの針金で作ったみたいだ。天使の羽というのは、きっとこのようなものだろう。

ぼくは息をのんで、この造化の不思議に吸い込まれてしまう。

「あれっ、羽が薄茶色になつてきた。」

ミトが見てはならないものを見たように言う。

「ほんとだ、おかしいな。」

そのとき、お母さんの声があった。朝ごはんの支度ができたというので、ぼくらはひとまず天使の羽の鑑賞を打ち切った。味噌汁がおいしい。もう一杯、と飲んでいるうちに、ミトはごはんをそこにすませて天使の羽を見に走って行った。ぼくも、すごいものを見せるからと、兄を引っぱっていった。植木鉢の前に、ミトが棒立ちになっていた。振り返った顔が、なんともなげない。

「一」「どうした？逃げたんか。」

「二」「いいや。」

とミトは力なく言い、植木鉢を指差した。なんと！そこには茶褐色のアブラゼミがいるではないか。

兄はにたつと笑い、

「三」「お前ら知らなかったのか。アブラゼミでも、かえったときはミンミンゼミみたいに羽が透き通っているのや。」

そのことばを聞き流しながら、ぼくは毎朝ミトに早起きさせたことを悔いていた。お母さんだったらこう言うだろう。

「自分が楽しようとばかりしたから、きつと罰があたつたんだよ。」

(河合雅雄「小さな博物館」より)

(注) 羽化……昆虫が幼虫から羽がはえて成虫になること。

ミト……「ぼく」の弟。

翅脈……昆虫の羽に見られる脈状の筋。

エメラルド……透明で濃い緑色をした宝石。

造化……天地の万物。自然。

問一 傍線部③、④の品詞名を次のア～カから選び、記号で答えなさい。

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 連体詞 オ 助詞 カ 助動詞

問二 Aにあてはまることばを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア だが イ また ウ そして エ 要するに

問三 傍線部①「三日間早起した」とありますが、「ぼく」は何のためにそうしたのか、適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア アブラゼミを捕まえるため。 イ セミの幼虫を土の中から掘り出すため。

ウ セミの幼虫が羽化するときの様子を見るため。 エ ミンミンゼミの生態を観察するため。

問四 傍線部②「うるさそうにぼくは言った」とありますが、それはどのように思ったからですか。簡潔に述べなさい。

問五 傍線部③「羽が透き通ってる！」とありますが、ここでミトの気持ちをふまえてこの部分を朗読するとき、どのような調子で読むのがよいか。次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 自信が持てないときのような、はっきりしない調子 イ すばらしいものを発見したときのような、興奮した調子

ウ 相手の失敗を見つけたときのような、強く非難する調子 エ 相手の様子を伺うときのような、気をつかった調子

問六 傍線部④「二人は息をのんで、植木にとまっているセミに見入った」とありますが、その理由として適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 昆虫の生延びる努力を目にして気の毒になったから。 イ 予想していたセミの種類とは異なることに気づいたから。

ウ 生きものの不思議や美しさを目にして驚き感動したから。 エ 育ててきたセミの幼虫が成虫になって満足したから。

問七 傍線部⑤「このようなもの」とはどのようなものですか。「くのようなもの」に続くよう文中から十二字で答えなさい。

問八 傍線部⑥「ミトが棒立ちになっていた」とありますが、その理由を三十字以内で答えなさい。

問九 「一」～「三」はそれぞれ誰の言ったことばですか。次から選んで記号で答えなさい。

ア お母さん イ 兄 ウ ぼく エ ミト

問十 傍線部⑦「きつと罰があたったんだよ」とありますが、「ぼく」はどのようなことが原因で罰があたったと思ったのですか。次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 幼虫に水をかけたりして、いい加減な世話をしたこと。
イ 自分で早起きすることはやめて代わりに弟に観察させたこと。
ウ ミンミンゼミとアブラゼミの違いを調べていなかったこと。
エ 朝ごはんのために幼虫の観察を途中で中断させていたこと。

問十一 「罰があたる」と同じ意味の四字熟語を次のア～ウから選び、記号で答えなさい。

- ア 天網恢恢
イ 悪逆無道
ウ 合縁奇縁

問十二 この文章について述べたものとして適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 母親の視点から子どもたちの日々の成長の様子を優しく見守っている。
イ 大人になった今の立場で子どもたちの「ぼく」を見ている。
ウ 子どもらしい行動や心の動きを「ぼく」の視点で飾らずに素朴に描いている。
エ 昆虫にまつわる思い出を、客観的に描いている。

【四】次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。(原文の漢字・仮名遣いを一部変更しています)

今は昔、紫式部、上東門院に歌読み優の者にてさぶらふに、大齋院より春つ方、「つれづれにさぶらふに、さりぬべき物語や候ふ。」と尋ね申させ給ひければ、御草子ども取り出ださせ給ひて、

①「いづれをか参らすべき」など、選り出ださせ給ふに、紫式部、「みな目馴れてさぶらふに、新しくつくりて参らせさせ給へかし。」と申しければ、②「さらばつくれかし」と仰せられければ、③源氏は

つくりて参らせたりけるとぞ。いよいよ心ばせずれて、めでたき者にてさぶらふほどに、伊勢大輔参りぬ。それも歌よみの筋なれば、④殿いみじうもてなさせ給ふ。奈良より年に一度八重桜を折りて

持て参るを、紫式部、取り次ぎて参らせなど、歌よみけるに、式部、「今年は大輔に譲り候はむ。」とて譲りければ、取り次ぎて参らするに、殿「遅し遅し」仰せられたが、そのお声のすぐあとに続け

てと仰せらるる御声につきて、いにしへの奈良の都の八重桜今日九重にほひぬるかな「取り次ぎつる程々もなかりつるに、いつのまに思ひつづけけむ」と、人も思ふ、殿もおぼしめしたり。

「伊勢大輔歌事」〈古今説話集 卷九所収より〉

問一 二重傍線部④「候ふ」⑤「給ひ」⑥「思ひ」の読み方を現代仮名遣いに直し、ひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①「いづれをか参らすべき」②「さればつくれかし」の主語を本文中より抜き出して答えなさい。

問三 傍線部③「源氏」とは紫式部が作った有名な作品です。I作られた時代と、II作品名を漢字で答えなさい。

問四 傍線部④「殿いみじうもてなさせ給ふ」とあるが、藤原道長は、なぜ非常に大事に待遇したと考えられるか。次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 歌が好きだったから
イ 歌を詠むのが上手だったから
ウ 歌人の家柄だったから
エ 歌を詠むのが苦手だったから

問五 傍線部⑤について、紫式部が伊勢大輔に譲ったものは何だったのか。次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 八重桜 イ 物語 ウ 殿（藤原道長） エ 和歌

問六 傍線部Aの和歌に関係のないものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 百人一首 イ 和泉式部日記 ウ 詞花和歌集 エ 袋草子 オ 伊勢大輔集

国語解答用紙

受験番号
得点

【一】
問一
① 腹
② 目
③ 頭
④ 鼻
⑤ 耳
問二
① エ
② イ
③ ウ
④ ア
⑤ オ

【二】			
問九	問八	問五	問一
ウ	お客は偉いわけではな	屋島で見ただけでもない	① 勤
問十	いわけではな	見た何でもない	② 戻
普段・日常	いと	と	③ 癖
	いう	コマ	④ さんさく
	こと	問六	⑤ いわかん
	を、	お客は偉いわけではな	⑥ れいぎ
	知る	は偉いわけではな	問三
	こと	は偉いわけではな	自分のため
	が	は偉いわけではな	問三
	でき	は偉いわけではな	子供の
	た	は偉いわけではな	問七
	か	は偉いわけではな	問四
	ら	は偉いわけではな	エ

【三】				
問九	問八	問五	問四	問一
「I」	ミン	イ	ウ	①
ウ	ン	問六	ウ	オ
「II」	ン	ウ	エ	②
エ	ゼ	問七	ミ	イ
「III」	と	エ	メ	問二
イ	思	メ	ラ	ア
問十	っ	ラ	ルド	問三
イ	て	ルド	の	ウ
問十一	た	の	針	
ア	セ	針	金	
問十二	ミ	金	で	
エ	が	で	作	
	、	作	った	
	実	た		
	は			
	ア			
	ブ			
	ラ			
	ゼ			
	ミ			
	だ			
	っ			
	た			
	か			
	ら			
	。			

セミの幼虫が羽化してしまつたのを見ても意味がないと思つたから。

【四】		
問四	問三	問一
ウ	a	①
問五	平安時代	そろろう
エ	b	②
問六	源氏物語	たまい
イ	③	おもい
	問二	上東門院